

基準は変えず

私は毎年人間ドックを受診しているのですが、毎回、「あなたは、生活習慣病予備軍です」と指摘されています。今年も、腹囲を測った際、担当のうら若き看護師から「昨年より増えましたね」と、にやっと笑われてしまいました。自分としては、そんなに「太っている」、とは思っていないのですが、腹囲がメタボの基準を超えている（名誉のためにいいますと若干です）のですから致し方ありません。

さて、メタボ健診というのは、2008年4月から、40歳から74歳を対象に導入されたものですが、その目的は、メタボリック症候群を早期発見し、医療費を抑えようというものです。

「お腹が少々出ている位で」とはいうものの、メタボリックシンドロームやその予備軍と診断された人は、生活習慣病予防に取り組まなければなりません。それを余計なお世話といってしまうっては、国民の健康、いや医療費の増嵩を心配している国には失礼かもしれません。

作家の小檜山博さんは腹囲が91センチメートルもあって、人間ドックでは「メタボリックシンドローム予備群に該当」と診断されて不愉快に思っているようで、「ぼくのまわりには100センチある人がごろごろしているのだ。6センチぐらい問題なし。」と開き直っています（同氏著「人間賛歌」）。メタボ基準というのは国民の健康を考えれば必要なものかもしれませんが、周りをみると、小檜山さんもいうように85センチメートルを超えていそうな人はごろごろいますし、第一に疑問なのは、男性85センチメートルに対して女性は90センチメートルと、平均身長の高い女性の基準が緩やかということでしょうね。

また、痩せていても内臓脂肪の多い人がいますから、腹囲85センチメートル以下だから大丈夫という事でもないだろうと思います。

そんなこんなで、このメタボ基準については、専門家からも疑問視する意見が出されており、昨年4月から厚生労働省の有識者検討会で基準の見直しについて議論が行われて来ました。

その結果、7月13日に行われた有識者検討会において、現行の基準を「2013年度以降も5年間維持する」との意見でまとめられました（7月14日付北海道新聞）。その理由が面白くて「基準変更の根拠となる科学的知見が見つからなかったため」としています。しかし、そもそも現在の基準に対して科学的根拠に疑問が出されていた事を考えると、学者の皆さん方も、一度決めたことは変えられないという前例踏襲シンドロームに罹っていない事を祈りたい気持ちです。（塾頭 吉田 洋一）

